

講義とゼミを担当していた。この大学は、新潟県内の日本基督教団傘下の諸教会がバックとなって発足した大学で、日本では最も若いキリスト教主義大学の一つである。大学院を出てすぐの赴任であったが、設立の最初からのメンバーということもあって、キリスト教主義大学の土台をまさにゼロから一つひとつ造り上げていくという大変貴重な経験をさせて頂いた。

明治学院大学は、既に130年の歴史を持つ、日本では最古級のキリスト教主義大学である。歴史の厚みという点でも、また、学生数の規模という点でも、敬和学園大学とは全く対照的であるが、そのような二つの（出身校である国際基督教大学も入れると三つの）キリスト教主義大学に関わることになったということもあって、最近では、自分の専門である旧約聖書学以外に、日本のキリスト教大学の歴史、いわゆる大学史に若干関心を持ち始めている。

当研究所での私の所属プロジェクトは「キリスト教主義教育研究」のプロジェクトであるが、今述べたような事情から、同じく当研究所主催の「賀川豊彦研究」や「宣教師研究」プロジェクトの研究報告会にも、4月以来顔を出させて頂いている。「賀川豊彦研究」にしても、また「宣教師研究」にしても、私自身は全くの門外漢であるが、いずれの分野も明治学院大学と深いつながりがあるだけでなく、近代日本の社会形成と社会変革、そして福音伝道と市民教育に大変大きな、そして、多様な影響を残した分野についての研究であり、興味は尽きない。当研究所を通して、この二分野の最新の研究成果に触れ、刺激を受けることができるというのは、私にとっては誠に望外の喜びである。特に「賀川豊彦研究」に関しては、これを機縁に、今年活動が再開された「賀川豊彦学会」に入会させて頂くことになった。少しずつではあるが、後学の徒として、専門の研究者の方々の教えを受けつつ、これから自分なりの「賀川豊彦像」、「宣教師像」をつくり上げて行くことができればと願っている。

## 所員就任に当たって

永野 茂洋

4月より、本学のキリスト教関連科目（全学必修の「キリスト教の基礎」と選択科目である「キリスト教の諸相」）の担当教員として本学院に奉職することとなり、それと同時に、キリスト教研究所のメンバーとして、当研究所主催の「キリスト教主義教育研究」プロジェクトの活動に加えて頂くことになった。このような恵まれた研究と交流の機会を与えられたことに、まず心より感謝をしたいと思う。

私は、明治学院大学に来る前は、敬和学園大学という12年前に新潟県新発田市に設立された人文学部をみの単科大学で、主に「比較文化論」、「キリスト教史」、「旧約聖書学」の

私の専門である聖書学分野での研究については、現在のところ何をどのようにするのが当研究所の研究プロジェクトとしてふさわしいのか、また、何が可能なのか、まだ見極めがついていない状態であるが、せっかく貴重な場と機会を与えられたのであるから、この分野でもいつか機を見て独自のプロジェクトを立ち上げていくことができると、ひそかに夢を膨らませているところである。

(ながの しげひろ 所員・教養教育センター教授)